

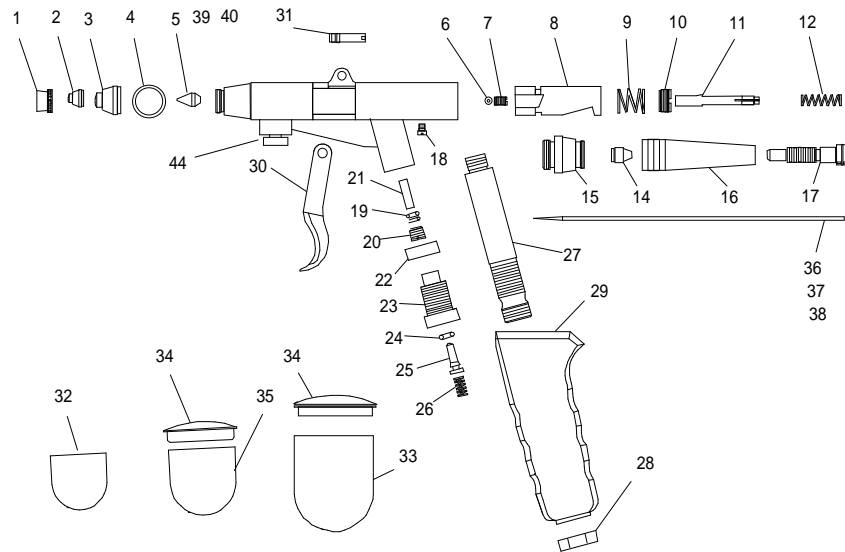
ニードル上に染みが残る事がありますがその時はニードルを平らな場所に置き消しゴムで全体的に擦って下さい。(ニードルを曲げない様に細心の注意を払って下さい)先端を曲げない様に注意し、少しずつ転がしながら付いた染みを擦り取って下さい。染みを擦り取った後は人差し指と親指の間にニードルを挟み、消しゴムのカスを拭い取って下さい。

ニードルを取り付ける際はチャックをきつく締め付けて下さい。
エアブラシ内部を洗浄する場合、カラーカップを本体から外し、チューブブラシを挿入し内部の洗浄をします。

もう一つの洗浄方法としては、シンナー、若しくは水をカラーカップに入れてバックフラッシュさせる方法があります。この場合、塗料が飛び散って作業場を汚さない様にエアブラシを作業台の下等の低い位置で構え、指又は柔らかい布等で吹き出し口を押さえてトリガーを全開に引くとシンナー、又は水が逆流してカップとチャンバー内のフラッシングをすることができます。

カラ-カップを洗浄する場合カップを本体から取り外し、洗浄液(シンナー、水等)を入れチューブブラシ等を使い残った塗料を洗い流します。

本体を洗浄溶剤に浸す際には、必ず“0”リングは外して下さい。バルブアッセンブリーを外す際はプライヤーを使いますが、傷が付く恐れがありますので、プライヤーにはアルミホイール、テープなどを噛ませてお使いください



- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| 1、ニードルキャップ | 15、ナット | 29、ホルダー |
| 2、ノズルキャップ | 16、アジャストハンドル | 30、トリガー |
| 3、ヘッドキャップ | 17、アジャストスクリュー | 31、トリガーボルト |
| 4、オーリング | 18、ガイドスクリュー | 32、カラーカップ 2cc |
| 5、ノズル0.5 | 19、オーリング | 33、カラーカップ 13cc |
| 6、オーリング | 20、スクリューシール | 34、カップふた |
| 7、ニードルガイド | 21、バルブステム | 35、カラーカップ 5cc |
| 8、ニードルナット | 22、ナット | 36、ニードル0.5 |
| 9、スプリング | 23、バルブ ASSY | 37、ニードル0.3 |
| 10、ストッパー | 24、オーリング | 38、ニードル0.8 |
| 11、ニードルチャッキング | 25、バルブスクリュー | 39、ノズル0.3 |
| 12、スプリング | 26、スロットルスプリング | 40、ノズル0.8 |
| 13、スプリングケース | 27、ハンドルパイプ | 44、エア調整ダイヤル |
| 14、ニードルチャックナット | 28、ハンドルナット | |

ガングリップタイプ エアブラシ 取り扱い説明書

このたびは、ガングリップタイプ エアブラシ をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。どうぞ。

製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの「取り扱い説明書」をよくお読みください。

お読みになった後は、いつでもご確認できるよう大切に保管してご利用ください。
ガングリップタイプ エアブラシ を正しく利用し、人体や財産への損害を未然に防止するため、使い方や設置の仕方の誤ったときに生じる、危害や損害の程度により次の表示で区分し、説明しています。

安全上のご注意

下記マークのある注意事項及び、指示内容に関しては必ずお守りください。

⚠ 警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を表しています。

⚠ 注意 この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容を表しています。

取り扱い上の不備または天災などによって発生する事故、損傷に付いては、当社は一切責任を負いかねます。

⚠ 警告

過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき、お酒を飲んだとき、妊娠しているときなどは作業しないでください。

作業時は、保護メガネ、保護マスクを着用してください。

閉所作業の場合、換気に充分注意してください。酸欠事故や中毒事故の原因になることがあります。

作業中は作業員以外の人を近づけないでください。

⚠ 注意

傷害事故防止のため使用前に必ず取り扱い説明書をよく読み、ご理解ください。

機械の使用目的以外の使用及び改造は行わないでください。

運転中は監視できる範囲内で作業を行ってください。周囲の安全を確認し、作業を行ってください

ホースなどの接続は確実に行ってください。ホースなどの接続部分が緩んだり外れたりして、思わぬ傷害事故の原因になることがあります。

作業のまえに

エアブラシの接続

エアブラシ本体にエアホースを接続し、コンプレッサに接続してください。

⚠ 注意 ホースと機器の接続は確実に行ってください。接続が不十分だと、突然のホースの外れによりたいへん危険です。

⚠ 注意 使用コンプレッサの圧力は0.4Mpa(4kg/cm²)以下の物をご使用ください。
圧力が高い場合は圧力調整レギュレーターで0.4Mpa(4kg/cm²)以下に調整してご使用ください。高圧のエアは塗装の品質の低下を招くだけでなく、機器の破損による思わぬ事故の恐れがあります。

エアブラシの調整

A、ダブルアクションの調整

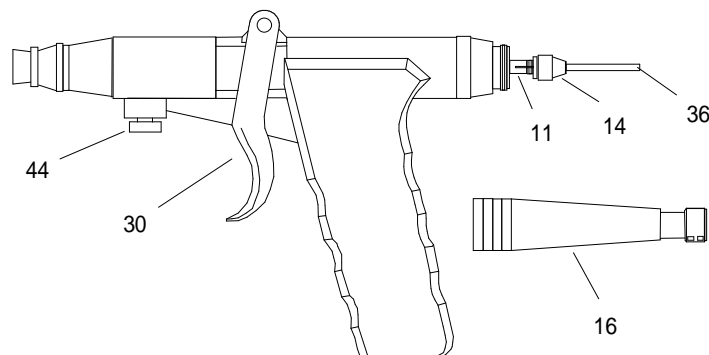
ダブルアクションとは、トリガーを少し引けばエアだけが噴射され、トリガーをさらに引くことでエアと共に塗料が噴射される機構です。

- 1、 No.16 アジャストハンドルをはずします。
- 2、 No.14 ニードルチャックナットを緩めます。
- 3、 No.36 ニードルを動かさず No.11 ニードルチャックナットと No.14 ニードルチャッキングを引っ張り、少し引いたところで No.14 ニードルチャックナットを締め付けてください。
- 4、 No.30 トリガーを引き、ダブルアクションの具合をテストし、必要な場合さらに調整してください。

(エアが噴射されるまでのトリガーのあそびが多すぎる場合や、トリガーを引いていないのにエアが噴射されるような場合は、スロットルの調整が必要です。Dのスロットルの調整を参考に調整してください。)

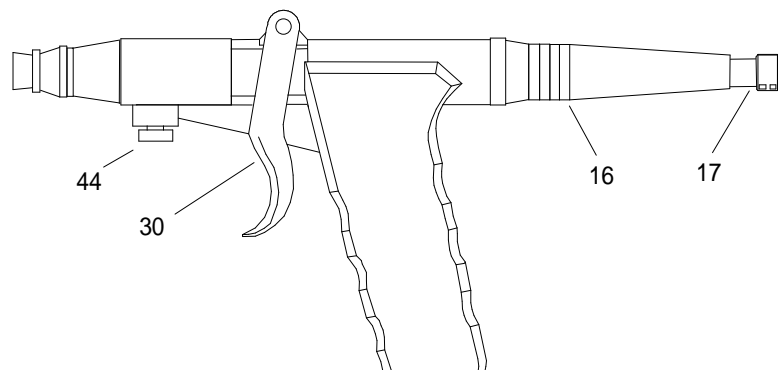
B、エア噴射量の調整

- 1、 No.44 エア調整ダイヤルを回し、エア噴射量を調整してください。



C、塗料噴射の調整

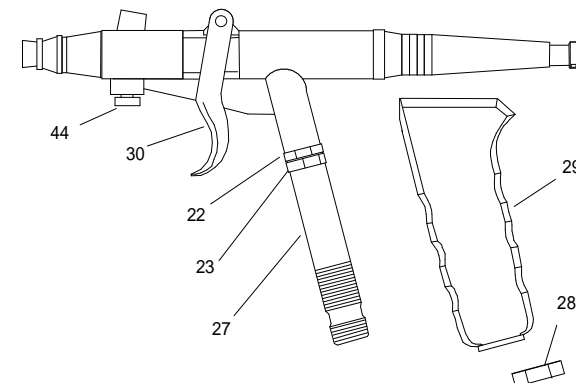
塗装の際、噴射される塗料の量を調整することができます。ダブルアクションの調整後、No.16 アジャストハンドルが装着された状態で、No.17 アジャストスクリューを回し、塗料の噴出量を調整してください。



D、スロットルの調整

トリガーの引きしりを調整し、トリガーのあそびをなくします。また、トリガーを引いていないのにエアが漏れる場合に調整します。

- 1、 No.28 ハンドルナットをゆるめはずし、No.29 ホルダーをはずします。
- 2、ホルダーのない状態でエアを接続してください。
- 3、No.22 ロックナットをゆるめ、No.30 トリガーを引きながら No.23 バルブを回しスロットルの調整をください。
- 4、調整が済んだらロックナットを締めホルダーをとハンドルナットを取り付けてください。



塗装の開始

- 1、エアブラシ本体にエアホースを接続し、コンプレッサに接続してください。
- 2、エアブラシ本体に No.33 カラーカップを取り付けてください。(カラーカップは確実に締め付けてください。締め付けが不十分だと塗料が漏れることがあります。)
- 3、塗料を適度な濃さに調節し、カップ 2 / 3 (またはそれ以下) まで入れます。新聞紙などでテストスプレーし、塗料粘度や噴射の具合を確認してください。その際、エアブラシの感覚も確認してください。
- 4、スプレーする部分以外は必ずマスキングをし、対象物にホコリやグリスなどの汚れが無いがよく確認してください。対象物はきれいなものを使用してください。小さなものにスプレーする場合は吊るしたり台を使用すると満遍なくスプレーでき、簡単に作業を行うことができます。
- 5、対象物とエアブラシの距離を 15cm くらいにします。ストロークは短めにし、一定の速さでエアブラシを絶えず動かします。スプレーする面に対して常に平行になるようエアブラシを構えてください。
- 6、厚塗りにならないよう注意しながらスプレーしてください。厚くペイントしたい場合はまず薄くスプレーし、乾燥させてからもう一度その上から塗料をスプレーします。お好みの色になるまでこの作業を行ってください。

本製品のメンテナンスとクリーニング方法

本製品はホビー及びプロ用の精密エアブラシです。正しい使用方法でご使用下さい。常識ある正しい使用方法で本製品を使用された場合、耐用年数も長くなります。本体とカラーカップは常にきれいな状態で保管して下さい。塗料を入れたまま長い間放置すると塗料が固まりカップの中やエアブラシ内部に詰まりを起す恐れがあります。エアブラシ内の洗浄を怠る事により塗料がつまりエア圧が掛かり過ぎ故障する場合があります。エアブラシ使用後に洗浄する際、ニードルを本体から外し洗浄します。(必ず適した溶剤をご使用下さい) ニードル組み付け時は先端を潰さない様に注意して下さい。